

平成22年度

施政方針

平成22年3月

飯山市

平成22年度 施政方針

平成22年3月定例会市議会の開会に当たり、平成22年度に臨む^{のぞ}、施政^{しせい}の基本方針を申し上げ、市民の皆様、並びに議員各位の御理解とご協力^{たまわ}を賜りたいと存じます。

私の一期目最後の年度に当たり、次の『三つの扉』を開くことで、明るく元気が出る飯山市づくりを市民とともに進めてまいりたいと考えております。

一つ目は多くの皆様のご協力により4月に開校いたします「城南中学校」「城北中学校」の新中学校開校に合わせた『飯山らしい教育』の扉であります。

子どもたちに飯山のすばらしさを教え、大人になっても飯山に住み続け将来の飯山を担ってもらえるような子どもたちを一人でも多く育てていくための扉を開いていきたいと思ひます。

二つ目は「農業と観光」の一体的な事業推進の扉であります。

市の大きな産業の柱であります農業と観光につきましては、より連携を深めるため「振興公社」と「観光協会」を統合し『信州いいやま観光局(仮称)』を新たに設立し、飯山の資源を生かした農業と観光の一体的な事業推進の母体として、また情報

発信基地として期待をするところであります。

4月には『寺まち交流館(高橋まゆみ人形館)』もオープンします。多くの皆様に来場いただきながら飯山のすばらしさを実感いただけるよう観光局を中心に産業活性化のための扉を開いていければと思います。

三つ目はいよいよ4年後にせまりました「新幹線開業」に向けての共存同栄の扉であります。

新幹線飯山駅は市民の夢であり悲願であります。長い年月をかけやっと形あるものとなってまいりました。新年度には新幹線飯山駅のデザインについて鉄道運輸機構より提案される予定でありますし、利用促進のために必要なアクセス道路の拡充として中央橋架け替えの事業も始まります。また、千曲川に架かります『菜の花大橋』の工事や区画整理事業も順調に進んでいます。

新幹線開業効果を最大限に発揮できるよう、訪れた方々に飯山の歴史と文化、そして街並みを楽しんでいただく『回遊性のあるまちづくり』の推進を図り、新幹線開業という大きな夢の実現のため市民の皆様とともに大きな扉を開いていきたいと思いをします。

日本の経済状況をみますと、世界同時不況からなかなか抜け出すことができず、円高・株安・デフレに多くの企業が苦しんでいます。ここにきてGDPが3期連続で伸びるなど若干景気回復の兆しがみえてきましたので、景気の二番底の懸念も薄れてきていますが、不安定要素が過分にありますので楽観視することはできません。

そんななか、去年は政権交代により民主党政権が誕生いたしました。地域主権を掲げ、マニフェストに謳^{うた}った各種施策実現のため、22年度当初予算案が提案されています。しかしながら、景気低迷により税収が伸びず、税収が国債発行額を下回るという危機的な財政状況であり、将来に大きな不安を残すものであります。

県の22年度予算においては、活力と安心により「明日の長野県を拓^{ひら}く」予算として、医療・福祉・雇用などの直面する課題に対処し、現在の「暮らしの安心」を確保するとともに、地域経済を活性化し、将来に向けた「活力あふれる地域づくり」を推進するため、21年度当初比で3.5%増の予算を県債発行増により確保することを予定しています。

さて、飯山市においては「悠久のふるさと飯山」を目指して施策を進めてまいりましたが、平成21年には転入世帯数が転出世帯数を上回る月も増えるなど、続けて

きました人口対策の成果があらわれてきています。今後も、新幹線飯山駅を中心にすえたまちづくりを進めるとともに、若者の結婚を応援する『恋するいいやま』にも取り組むなど、一期目総仕上げの年として、多彩な事業を新年度も引き続き実施し人口維持を図ります。

いずれにしても、「変化に富んだ四季、豊かな自然、ほっとする景観」など『飯山の宝』を磨き、多くの人が飯山を訪れ住んでもらえるようにするとともに、市と市民が一緒の夢をもち、協働して事業推進を図ることで、市民が飯山市に誇りと自信のもてるようなまちづくりを今後も実施していく必要があると考えております。

事業実施の裏付けとなります飯山市財政につきましては、厳しい財政状況に変わりはありませんが、「中学校統合事業」など大型事業が終了したことや、国の地方重視等により、多額の基金取り崩しをせずに収支の均衡を図ることができました。

しかしながら、景気低迷による^{ぜいじゃく}税収の落ち込みなど市財政が脆弱であることに変わりはありません。今後も事業の選択と集中により安定した財政運営ができるよう努力をしていく所存であります。

厳しい財政状況のなか、協働事業による投資の抑制などで極力借金を少なくしてきましたので、公債残高は大幅に減少し、普通会計の21年度末残高で91億4千

万円余と100億円を下回ることができました。下水道等の繰出金がピークを過ぎたことも合わせ将来的な債務は年々減少していきます。

結果として、債務を表す「^{じっしつこうさいひりつ}実質公債費比率」につきましては、20年度決算では18.6^{パーセント}と基準の18^{パーセント}を若干超える値になりましたが、21年度決算では18^{パーセント}を下回るものと推計しています。

今後も、経常的経費の削減を図り、事業の選択と重点配分を行い、基金を取り崩しながらも大型事業に対応できる予算編成を進めたいと思います。

また、平成22年4月より過疎地域に指定されますので、過疎債という有利な起債を活用しながら将来的にも大型事業に対応可能な財政運営ができるものと確信しています。

それでは、平成22年度予算の特徴と施策の概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で130億円、前年度対比マイナス1.5^{パーセント}、2億円の減であり、4年連続の減となりましたが、21年度と同様、国の補正予算対応により一部新年度事業を3月補正で前倒しをして執行するものもございます。

歳入のうち、市税につきましては前年と同額、普通交付税につきましても同額を計上しながら、臨時財政対策債についてのみ大幅増を見込みました。

歳出につきましては、中学校統合という大型事業は終了しましたが、引き続き、総合計画「四つの柱」を中心に、経常経費を含めた各部局毎に総枠配分ごと そうわくはいぶんを行うなど、事業の選択と集中による予算編成を実施してまいりました。

後期基本計画に基づき、私の理念である「子どもに夢と希望を」「市民に元気を」「お年寄りには安心安全を」実現するため、可能な限り当初執行可能な予算の構築を行ってまいります。

以下、後期基本計画における「四つの柱」に基づく事業内容についてご説明をし、22年度の飯山市が目指す姿についてご理解頂ければと思います。

一つめの柱は、『産業の活性化』であります。

前段申し上げましたとおり、4年後に迫りました「北陸新幹線飯山駅開業」に向けて、区画整理事業も進んでまいりました。

21年度には新幹線アクションプランに基づいた具体的な施策について検討してきたところであります。特に「回遊性のあるまちづくり」については、具体的な実施計画により、開業後の効果が最大限発揮できるよう進めていきたいと考えています。

22年度の区画整理事業は、移転補償と街路整備などで4億1千万円余となり

ます。街路等整備状況がはっきりしてきましたので注視いただくと共に、ご協力をお願いいたします。

また、駅舎に合築します都市施設整備のための基本設計、及び、駅西線の街路設計、現飯山線駅統合のための詳細設計の他、新たに駐車場を中心とした駅西地域の基本設計などアクションプランに基づいた事業執行を予定しています。

次に、商工業振興についてですが、新たに、「本町アーケード」改修調査のための経費を計上した他、引き続き、産業活性化のための起業者に対する支援、新たな土産品の開発推進を行います。

また、雇用環境整備としての企業誘致を積極的に進めると共に、景気低迷における緊急経済対策として、市内中小企業に対する資金融資預託枠の拡大や利子補給など、既存企業への対応も引き続き行ってまいります。

交流人口拡大策につきましては、22年4月にオープンします『寺まち交流館（高橋まゆみ人形館）』を核に『信州いいやま観光局（仮称）』が行う誘客宣伝等運営のための補助、あるいは、県補助金を受けての戸狩温泉再生モデル事業などを新たに実施します。また、外国人誘客を推進するための経費や、国際グリーンツーリズム推進のための経費を計上するなど海外からの観光誘客にも力をいれていきたいと思っております。

農業振興としましては、「農業振興対策事業」として新たに『冬至^{とうじ}かぼちゃ』種子代補助を行いますし、飯山農産物を「板橋区^{いたばしくおおやま}大山商店街」に委託販売するための経費や料理コンテストを開催する経費を計上するなど農業振興・交流拡大を図る「飯山市農産物産直展開・販売戦略推進事業」も実施いたします。

その他、農業用施設の維持管理・環境整備を行う地域に対し交付金を交付する「農地・水・環境保全向上対策事業」、「中山間地域等直接支払い事業」などを引き続き実施するとともに、熊やイノシシ被害に対応するため「鳥獣対策事業」の拡大も実施してまいります。

一方、これらの政策を推進するために、20年度税制改正により導入されました『ふるさと納税』推進のための「悠久のふるさと飯山応援金推進事業」も積極的に実施をしていきたいと思っております。

二つ目の柱は、『移住・定住、通勤・通学対策』であります。

移住・定住促進対策を推進していますが、22年度には上新田住宅団地に1棟4戸の市営住宅の整備を行いますし、新たに、高齢者世帯に対する住宅屋根の融雪化に対する補助を行います。また、「移住・定住支援住宅建設促進事業」など住環境整備としての住宅建設補助を引き続き進めていきます。

そして、市内に親等と同居する目的で住宅を新增築する市民に対し利子補給を行う「親子等同居住宅建設応援事業」や「2000万円住宅」「飯山市空き家バンク」の推進など積極的な人口対策を行なってまいりますし、後継者・未婚者対策として「出会いの場創出事業」も21年度に続き取り組んでまいります。

また、21年度末には市ホームページの再構築による情報発信の強化も行っております。

その他、通勤・通学対策として市民の足確保のため、市道除雪融雪対策や公共交通運行などを継続して実施いたします。

三つ目の柱として『ゼロオからの安心・安全、豊かな教育』であります。

一つには子育て支援であります。全国的に少子高齢化が進んでいますが、飯山市においても年々出生者数が減少しており、このことに対し何とか歯止めをかけるために、子どもを産み育てる環境づくりが必要であります。

22年度には「ゼロオから小学校6年生」までの医療費無料化を実施いたします。

医療費無料化については段階的に拡大してきましたが、22年度には小学校6年生まで無料化を拡大しますので、医療費の心配をせずに安心した子育て環境が整う事になります。また、国の補助により、中学生以下の子どもに対し『月額13000

円』を支給する「子ども手当・児童手当等給付事業」を行うほか、今まで母子家庭のみに支給されていましたが『児童扶養手当』も22年度からは父子家庭に拡充し実施をまいります。

また、新たに県の「安心子ども基金」を活用し、子育て支援センターの環境整備や保育園への絵本整備を行いますし、引き続き「児童館・学童クラブ」の運営、子育て相談事業や「子育て支援センター」運営、不妊治療や妊婦検診の助成に加え、「子育ておうえん券」の発行を行うなど、総合的な支援による少子化対策を実施してまいります。

次に、飯山らしい教育の推進であります。22年4月開校します『城南・城北中学校』において、生徒達が不安なく勉強等学校活動ができるよう、加配教員の配置などを行う「新中学校教育環境整備事業」を新たに実施いたします。

また、日常生活や学習に支援が必要な児童・生徒が、普通教室で学習するための「とくべつしえんきょういくしえんいんはいち特別支援教育支援員配置事業」や、外国人英語指導助手雇用による中学校英語力の向上のための事業を行うほか、新たに、小学校においても外国人英語指導助手を2名雇用し小学校英語の充実を図ります。また、引き続き「教員加配」及び「飯山らしい教育推進事業」「わかる授業・確かな学力育成事業」を実施するとともに、22年度には県の緊急雇用事業を活用しながら支援員を雇用し、不登校児童生徒

の支援を行うなど、学力向上及び飯山らしい教育を推進してまいります。

そして、文化・スポーツ振興として、飯山の^{ぶっし}仏師が制作しました「旧善光寺仁王像」を譲り受け、運搬・修復・調査する事業を新たに実施しますし、23年1月開催予定の「長野県スキー大会週間」開催のための経費も計上いたしました。

最後の柱は、『共存、共栄やさしいまちづくり』の推進であります。

幸い、ここ数年大きな災害にはあっていませんが「市民の安心・安全」を守ることが行政として取り組むべき^{きつきん}喫緊な課題であります。

「自主防災会育成強化」に取り組むと共に、住宅の耐震対策に加え、^{びちくひん}備蓄品の購入など災害時に備えた環境整備を引き続き進めてまいりますし、22年度には、過去の水害による水位標識の設置も行います。

次に、介護予防及び健康増進・福祉施策についてであります。

メタボリックシンドロームに特化した^{とくていけんしん とくていほけんしどう}『特定健診・特定保健指導』の実施など、成人病予防強化による将来的な要介護者を減らすための事業も引き続き行います。また、「健康増進プログラム」「健康増進・高齢者等健康診査事業」「市民健康大学」「人間ドック費用助成」などを行い市民の健康増進を充実させ、医療費を抑制することと併せて、勤務医確保のための研究資金貸付けや救急医療に対する助成を行

い地域医療の安定を図ります。また、福祉施策につきましても各種事業を引き続き積極的に実施してまいります。

そして、協働の推進であります。地域の基盤整備事業である「協働のみちづくり・むらづくり」や地区活性化のための「悠久ゆうきゆうのふるさとづくり支援事業」及び「集落合併支援事業」を継続実施いたします。

その他、生活環境施策として、全地区に多目的トイレの設置を目指し、残る富倉地区活性化センターにも多目的トイレを整備するなど、誰もが利用しやすい施設の整備を行いますし、県の基金を活用しながら「公共施設省エネグリーン化推進事業」として庁舎に太陽光発電設備などを整備し省エネグリーン化に取り組みます。また、ケーブルテレビのデジタル化についても実施してまいります。

ごみ減量化につきましても「ごみ減量・再資源化推進事業」「リサイクル推進事業」などにより市民のご協力を得ながら確実に進めていきたいと考えています。

また、温井上境簡水整備を継続実施し、安定的な水の供給を行います。

最後になりましたが、冒頭申し上げたとおり22年度は3つの扉を開けるための大事な年であります。

これからも多くの扉を開けなければならない場面に遭遇するかとも思いますが、市民の皆様方のご協力をいただきながら、知恵と努力によって、どんなに大きく重い扉であっても必ず開けることができ、未来は広がっていくものと信じています。

新幹線開業という大きなイベントが間近にせまるなか、飯山を明るく活性化させるため全市をあげて取り組む必要がありますし、飯山の宝である子ども達が誇れる飯山市を未来に向けて手渡していく使命が私たちには課されています。

先人が守り育ててきたこの『悠久のふるさと飯山』を発展させるため、市民の皆様と力を合わせ『大きな扉』を一緒に開き、歩み続けることをお願いすると共に、議員各位のご支援ご協力を心よりお願い申し上げ、^{しょうしん}所信の表明と致します。

平成 22 年 3 月

飯 山 市 長 石 田 正 人